

情報連絡員報告総括表(令和5年7月期)  
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	→	↘	↘	・気温が高いため、スーパー等の売上が減少している。 ・原材料価格の値上がりが止まらない。 ・ガソリン等の高騰により、運送費がかさんでいる。 ・最低賃金が高くなることによる企業への影響が心配である。
	豆腐製造業	↘	↗	↗	→	↘	↘	→	↘	↘	・消費者の節約志向と低価格の細分化により、価格転嫁後、売上が伸びていない。 ・コロナ禍やウクライナ情勢、原材料・副資材・エネルギー価格の高騰などが要因となり、県外の異業種企業と資本業務提携をして事業継承を行った県内企業がある。
繊維工業	ニット製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・自動車関連は回復傾向にあるが、衣料関連は未だ回復に向かっていない。 ・値上げ交渉は改善に向かっている。 ・人材確保が課題である。
	絹人織織物製造業	→	↗	↗	→	↘	→	→	→	↘	・化合繊維物、絹織物共に、製品の値上げは浸透しているものの、諸経費の値上げが激しく、収益を圧迫している。 ・製品単価の上昇によって、取引先の在庫金額が上昇していることから、取引先は在庫数量の減少を図るために注文数を減らしている。そのため製品の売上数量は減少している。
	綿・スフ織物業	→	→	→	→	↘	→	→	→	→	・全体的な受注はほぼ横ばいだが、電力料金の上昇によって、収益が悪化する一方である。
木材・木製品	一般製材業	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	・県内の新設住宅着工戸数は大幅に減少しており、木材利用の大半を占める新設住宅着工戸数の減少に伴う需要の低迷は、荷動きや客足の悪化、木材価格の下落に繋がり、木材関連事業者の経営環境を圧迫している。 ・住宅の新築やリフォームなどの住宅建築需要の拡大は、ロシア材の適材適所での利用拡大に繋がり、手持ちのロシア材在庫の解消になるため、新設住宅着工戸数の増加が必要である。 ・昨年夏から下落傾向が続いている県産材素材価格は、今年度に入りほぼ横ばいから持ち直しの動きも示しており、ウッドショック前に近い水準になりつつある。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印	刷印刷業	→	→	↗	→	↘	↘	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上は、企業によって増加と減少様々な状態である。</li> <li>・販売価格は上昇しているが、未だ十分な収益確保に繋がっていない。</li> <li>・商業印刷業界の景況は、好転の兆しがほとんど見えない状況である。</li> </ul>
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原料や燃料の価格上昇が続いており、収益を圧迫している。</li> <li>・原料仕入れ先の出荷停止など、先行きが不透明な状況も起きている。</li> </ul>
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比9.4%の減少となっている。</li> </ul>
	コンクリート製品製造業	→	→	↗	→	→	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足が続いている。</li> </ul>
	骨材・石工品等製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨材需要は、堅調な状況が続いている。</li> <li>・全組合員が更なる骨材価格の値上げを要望しており、値上げ時期や値上げ額について協議している。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	・大型建機部品は堅調だが、小型建機部品は大幅に減産している。前年同月並みの生産量は確保できているが、先行きの景況感は悪化している。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・地金が高騰している。
	アルミニウム製品製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産受注が持ち直ししている。 ・コロナ禍前の水準に景気が好転している。 ・材料費の高騰、溶接作業による電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高による賃上げ等、課題が山積している状況にある。
	めっき加工業	↗	→	↗	→	↗	→	→	→	↘	→
一般機器	金属工作機械製造業	↘	↗	→	→	↘	→	→	→	↘	・受注状況について、前年同月比91.6%となっている。増加しているのはロボット関係のみであり、工具、軸受、油圧、工作機械など全体的には減少している。業況は厳しい状況が続いており、秋口まで続くと思われる。
	金属加工機械製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	→	→	↘	→	↘	→	→	→	↘	・業界団体のアンケートでは、受注量が確保できていない企業が65%となり、更に、諸物価高騰から受注価格が上がるべきところ、変わらないが50%、逆に下がった企業が30%となり、需要の乏しさと受注競争の激しさを表している。儲かっていない企業が半数以上を占めるといふ厳しい経営環境に置かれている。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	→	・電子部品業界は、鉱工業生産指数で表されるように、景況感の後退が鮮明になっている。受注が少なく、同時に人手不足であり、満足な生産が行えていない。 ・エネルギー価格の上昇、原材料価格の高止まり、円安による輸入単価上昇が影響し、利益率が低下している。 ・サービス業の雇用が増加している影響から、人材獲得が困難になってきている。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	↗	→	→	↗	→	↗	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・猛暑が続き、個人消費への影響が懸念される。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↑	→	→	→	→	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合扱いセメント袋と員外組合員のホームセンターのセメント袋の売値が大幅に乖離しているため、顧客は価格差に誘引され、安価なホームセンターのセメント袋へ流れてしまう傾向が続いている。</li> <li>・野丁場の使用物件が少なく、今後大幅な数量の回復は望めない。</li> </ul>
	非鉄金属製品卸売業	↓	↑	↑	↓	↓	↓		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料価格高騰による販売価格のアップによって、売上、受注の減少が続いている。</li> </ul>
小売業	鮮魚小売業	↓	→	↓	→	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。</li> </ul>
	食肉小売業	→	→	↑	→	↓	↓		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格転嫁を幾度となく行っているが、エネルギーコストや仕入れコストの上昇が止まらないため、収益性は悪化している。</li> </ul>
	野菜・果実小売業	↓	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山卸売市場の売上高は、前年同月比95%、青果組合全体の売上高は、前年同月比96%となっている。</li> <li>・市場外流通のように、市場の物流の変化などが要因で、富山卸売市場の国内果実の入荷数量が64%と、北陸の市場平均90%を大きく下回っている。</li> </ul>
	家庭用電気機器小売業	↑	↓	↑	→	↑	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とやま省エネ家電購入応援キャンペーンにより、品物の動きは良好である。</li> <li>・猛暑での取付工事や配送は、大変厳しいものとなっている。</li> </ul>
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
	ガソリンステーション	→	→	↑	↓	→	↓		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。カーボンニュートラル対策を模索しながらも、平時・緊急時を通して燃料の安定供給に取り組んでいる。</li> <li>・ガソリン価格の高騰や物価高による節約志向や買い控えが響き、需要の回復感は弱く、7月のガソリン販売量は、前年同月比で横ばいの見込みである。</li> <li>・ガソリン販売価格については、石油元売りなどへの燃料油価格激変緩和補助金の補助率引下げの影響から、徐々に上昇傾向にあり、既に前年同月の価格を超えている状況である。</li> <li>・富山県のSSは前年より4SS減少し、事業者数は2社減少している。</li> </ul>
	農機具小売業	↓	↓	↑	↓	↓	↓		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
	ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年同月比で売上は101.4%、客数は96.3%となっている。</li> <li>・涼を求めて来店されるお客様が多いように見受けられる。</li> <li>・電気料金の高騰が気掛かりである。</li> </ul>
	ショッピングセンター	↑	→	↑	→	↓	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気料金や各種資材など業務に必要な物の価格が高騰しており、収益を圧迫している。</li> <li>・消費者の生活防衛意識がより強くなっており、今後の景気の先行きが不透明である。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	↗	→	→	→		→	→	・イベント開催時には賑わいが戻ってきているが、通常は静かである。 ・日中の飲食関係にはインバウンド消費があるが、夜には結びついていない。
	商店街	↗	↗	↗	→	↗	→		↘	↗	・売上について、物販関係、飲食関係共に、増加傾向が見られる。特に夜間の飲食関係の増加は著しい。
サービス業	クリーニング業	→		↗	→	→	→		→	↗	・特になし。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・夜の予約が前年同月に比べて若干増えていることが、売上増加に繋がっている。
	建築設計業	↗		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・7月の自動車新車新規登録・届出台数は、登録者については前年同月比で11ヵ月連続で増加しているが、軽自動車については前年同月を11ヵ月ぶりに下回っている。材料や部品の供給不足による生産調整の影響は着実に縮小しているものの、現状の受注残を大きく解消するだけの生産体制の構築は依然として厳しい状態である。 ・受注残の解消後は、ウクライナ情勢や為替市場、物価高騰の状況によっては、自動車の車両価格が更に値上げとなり、購買意欲が薄れ、新車販売台数の減少となることが予想される。 ・自動車整備事業者は、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題を抱えており、対応できない事業者は扱える車種が加速度的に減少していく状況である。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	→		→	→	→	→		→	→	・首都圏などの大型物件は、著しい建設コスト上昇による計画の延期や中止は少ないが、中小鉄骨加工業者はコスト上昇の影響をもろに受け、物件はあまり増えておらず、また、地場ゼネコンも価格競争をされており厳しい状況が続いている。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・管材卸店が、組合の共同購買品の値上げを申し入れしてきているため、各組合員への販売価格について引き上げざるを得ない状況である。 ・高校へ出向き、新卒の求人についてお願いに回っている。
	電気工事業	↗		↗	→	→	→		→	↗	・設備投資増により、受注工事の増加傾向が続いている。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料油価格激変緩和補助金の補助率引下げの影響から軽油価格が徐々に高騰しており、7月は前年同月比+8円/ℓ前後で推移し、今後は更に高騰する見込みである。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比+7.6円/ℓ、前月比+3.9円と上昇している。 ・物量については、前年同月比98.9%と前年並みである。 ・暑さのせいかな飲料関係が好調である。